

氏名	NIRMAL RIMAL
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1690号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系公衆衛生学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Mass screening for early detection of hepatocellular carcinoma by setting a high-risk population with α -fetoprotein and its glycoforms (AFP とAFP glycoformsにより高危険群を設定した肝細胞癌の集団検診)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 青山 英康 教授 原田 英雄

学位論文内容の要旨

肝細胞癌の早期発見を目的とした検診において、肝細胞癌に特異性が高く、早期発見が可能とされているAFP glycoformsの検査を集団検診の場に応用し、その有用性について検討した。

40歳以上の住民を対象に岡山県健康づくり財団が行った集団検診の受診者24,839人について肝機能検査を行い、ASTあるいはZTTに異常を認めた808人についてAFPを検査した。このうちAFP 20ng/ml以上の例は33人で、この33人に対しAFP-L3およびAFP-P4を検査した。AFP-L3、AFP-P4のいずれか、あるいは両者の値がそれぞれ15%以上、12%以上の例は7例で、このうち5例が肝細胞癌と診断され、残りの2例は肝癌は明らかでなかった。同時に対象全例に対して行った腹部超音波検査では肝癌は発見されなかった。この方式による肝癌発見率は0.02%となり、これは腹部超音波検査を用いた検診による発見率と同等であった。肝細胞癌1例を発見するのに要する費用は287.9万円と計算され、腹部超音波検査による検診で要する費用の約4分の1であった。

AST、ZTT、AFPに加えてAFP glycoformsをスクリーニングに加えることは肝細胞癌早期発見の補助手段として有用であり、費用効果の面でも妥当と考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、肝細胞癌の早期発見を目的とした検診に、肝細胞癌に特異性が高く、早期発見が可能とされているAFP glycoformsの検査を行うことの有用性について研究したもので、AFP-L3およびAFP-P4のいずれか、あるいは両者の値から肝癌発生率は0.02%という高判定を得、これは腹部超音波検査による検診と同程度であるとの貴重な結果を得ている。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。